

地域の魅力発見！

地域と共に創る、魅力ある街づくりを目指して

岐阜県立大垣桜高等学校

大垣桜高校ってどんな学校ですか？

「賢く つよく 美しく」を校訓とし、西濃地区で唯一「家庭科・福祉」を学ぶことができる学校で、学びを生かしコンクールや検定に挑戦するなど、専門的な学習に加え、実践的・創造的な活動でも成果を上げています。ファッションを主に学ぶ服飾デザイン科、食を主に学ぶ食物科、被服・食物・保育・福祉を学ぶ生活デザイン科、福祉を主に学ぶ福祉科があり、地域や企業の皆さんと連携した学習で、持続可能なものづくり、街づくりの担い手を目指します。



この研究テーマを選んだ理由は・・・

私たちが学ぶ、人と日常生活に関わる専門的な学習を生かし、地域と共に持続可能な街づくり、誰もが住みやすく、魅力的な街づくりを行いと考え、このテーマを選びました。

取り組んだ内容とその成果と課題

○地元企業と連携し、廃棄資源を生かした作品製作とSDGsの普及活動（服飾デザイン科）

『株式会社艶金との連携』

食品廃棄物から染色を行う「のこり染め」の布や在庫を持たないシステムを取り入れたSDGsブランドの商品開発

◇アパレル業界のSDGsの取組を学び、ワークショップで普及活動ができた。

◆多くの人に向けて環境に配慮した服の購入や使用について考えられるように発信をする。

○産学官と連携し、地域食材の活用の提案、発信（食物科）

『関ヶ原町役場や地域の企業と連携』

もち米ふわりもちを使ったレシピ開発と提供

◇地域の農産物の発見や生産者の思いを知った。PR用のレシピ提供ができた。

◆地域との継続的な取組とゴールとする目標の確認、設定をする。

○地域の小学校と連携したSDGs活動（生活デザイン科）

『墨俣小学校との連携』

環境について考える手作りのパネルシアターで地域の小学校との学習交流

◇水や食料の大切さ、ゴミの分別方法を演劇で理解してもらうことができた。

◆上記について理解したことを、小学生と共に実践的な取組を企画する。

○誰もが充実した生活を送る社会の実現に向けた普及活動（福祉科）

『障がい施設「ハーモニー大垣」と連携』

施設のパン製造体験と大垣桜高校でのパン販売と障がい施設の普及活動

◇全校生徒へ障がい者支援施設の取組みや雇用について広めた

◆上記の継続した取組みや地域全体の課題の把握と実践的な活動を強化する。

実践をとおして学んだことは・・・

私たちは役場・地域の企業、農業生産者、福祉施設等、幅広い方々の協力を得て、地域の現状や課題等を知り、様々な体験を通して多くの地域資源を知りました。連携活動により、ものづくりの楽しさや地域の魅力に気づき、さらに、これらの学びが全てSDGsにつながっていることを知りました。地域の課題は自分の課題であることを実感し、もっと、もっと各科が具体的な活動に関わって、地域連携の担い手になりたいと思います。